

『あすなろ自遊モリ森』の取り組みについて

津軽森林管理署金木支署 業務課 販売係長 ○斎藤 健治
森林ふれあい係長 金澤 裕子

1 はじめに

「中泊町の木であるヒバを通じて、森林や郷土を愛する心を育てたい」として平成24年5月24日に中泊町立中里中学校と金木支署で管内では、初めての取り組みとなる「遊々の森」の協定を締結した。国有林で継続的に体験活動が展開できる場を提供し、学校等による森林環境教育の推進に寄与するのが目的の一つである。この「遊々の森」は、生徒たちにより『あすなろ自遊モリ森』と命名された。

森林の次世代を担う子供たちに、この「遊々の森」をフィールドとした様々な活動を通じて、環境教育が心の成長にどのような影響を与えるかについて、考察することを目的とする。

本研究では、平成24年度に実施した取り組みについて紹介する。

2 「遊々の森」の制度について

現在、林野庁では、国民の「もりづくりをやってみたい」というニーズに応えるため、自然豊かな国有林のフィールドを提供し、実施主体が、森林管理署などと協定を締結することにより、多様な森林整備や保全活動などに対応した国民参加のもりづくりを推進している。

「遊々の森」では、学校及び地域で森林の様々な活用を通して活動している者及び団体に活動の場として、国有林を協定に基づき提供する制度であり、最長5年の期間で協定を締結する。

また、「遊々の森」に係る協定は、双方の合意によって延長することができる。

3 協定締結までの経緯

平成24年3月に協定相手方である中泊中学校より、青森県北津軽郡中泊町大字今泉字今泉山国有林について、森林環境の整備や町木であるヒバを育てることにより、子供たちの郷土を愛する心を育てたいため、国有林を活用したいとの申し出があった。

中泊中学校が申請する箇所は、国有林野事業の各種施業の予定がなく、申請内容が国有林野事業に影響する見込がないこと、さらには地域住民等から国有林の活用する趣旨に対して理解が得られたことにより、協定



写真-1:「遊々の森」協定締結調印式の様子

(左から 森林技術センター所長、中里中学校長、津軽森林管理署金木支署長)

締結の条件が整理できたことから、平成24年5月24日に協定を締結した。

以下、『あすなる自遊モリ森』の紹介。

- ・ 実施主体：中泊町立中泊中学校
- ・ 協定期間：平成24年度～平成28年度（5か年）
- ・ 協定目的：県木および町木でもあるヒバを通して、森林や郷土を愛する心を育てる
- ・ 実施内容：ヒバを主とした取り木等の体験活動による森林環境教育（年3回程度）

4 研究方法及び経過

「遊々の森」に設定した中泊町の国有林を環境教育体験のフィールドとして使用し、調査対象を中泊町立中里中学校の一年生全員（76人）とした。

5月に森林教室、6月にヒバの取り木体験、10月にヒバの植樹体験の計3回森林環境教育を実施。1回実施するごとにアンケートを行い、子供たちの森林に対する印象や考え方の変化をとらえ、興味や関心の広がりを通じて子供たちの心の成長を調べる。

（1） 森林教室の実施（平成24年5月実施）

平成24年5月28日に中泊中学校の体育館にて、当支署職員及び森林技術センター職員で森林教室を行った。森林教室では、生徒たちに、「森林の役割」、「ヒバについて」、「空中取り木」についての説明を行い、空中取り木ビデオの上映及び作業内容を実演し、森林やヒバに対する理解を促した。

その後、実際に生徒を3グループに分け、森林の調査器具の体験や空中取り木の体験をさせ、樹木の種子等を見せ、楽しみながら学んでもらった。



写真-2：樹高の測定方法についての様子



写真-3：枝の皮剥ぎの練習の様子

（2） 空中取り木苗木づくり（平成24年6月実施）

平成24年6月4日に今泉山国有林350林班は1小班にて、秋に植える空中取り木苗木づくりを実施した。

取り木するヒバの調査として、生徒には、そのヒバの樹高、胸高直径、枝の張り具合などを調査させた。その後、各自2本ずつ空中取り木苗を作らせた。

空中取り木苗の作り方は、以下の手順で行う。

- ① 枝の皮を剥ぐ
- ② 剥いだ箇所にもズゴケを巻き付ける
- ③ ミズゴケを巻き付けた箇所にビニールで覆い、乾燥を防ぐ。



写真-4：枝の皮剥ぎの様子



写真-5：植付けの様子



写真-6：空中取り木苗の作成手順

(3) 取り木苗の植樹（平成24年10月実施）

平成24年10月9日に今泉山国有林362林班に4小班にて、6月に作製した空中取り木苗及び山取り苗の植樹を実施した。

生徒には、実際に唐鋤を使い、植樹する穴を掘り、空中取り木苗及び山取り苗を一人4本程度植樹させた。



写真-7：穴掘り様子



写真-8：植付けの様子

5 研究の成果

年3回の森林とのふれあいを通じて、生徒からアンケートを取ったところ、1回目の森林教室では「森林に興味があった」が83%、2回目では「興味があった」が同じ83%だが、「とても興味があった」の割合が多くなっている。そして、最後の3回目に行ったヒバの植樹体験では、過去のアンケートの時より「興味がわかなかった」という生徒の割合が減少し、「興味があった」との回答が94%を占めるようになり、多くの生徒が森林に興味を持ったことが示された。

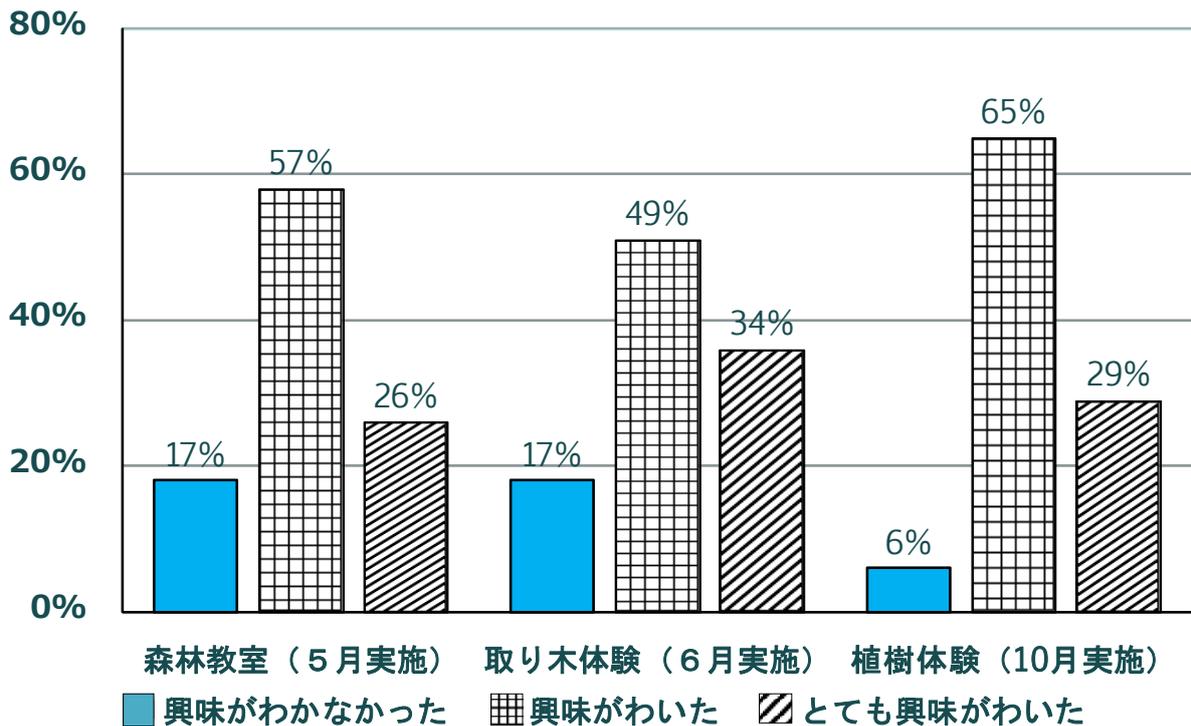


図-1：体験後の森林に対する興味の変化

また、年3回の森林環境教育を通じて「森林」というものがわかってきたという回答は97%にもなった。このことから、今回行った森林環境教育が森林についての興味や理解を深める上での基礎となったと考えられる。

この学習をする前は森林にはあまり興味があまりなかったけど
学習をしてからは森林についてとても興味がわきました。今日、植
えた苗木が数年後に大きくなるといいなと思います。
 また、植樹活動をする機会があればぜひ参加したいです。
森林というものの大切さや役割などが分かったので、これから
も森林を大切にしていきたいと
思います。今回の森林学習はとまも
り勉強になりました。

今日は、植樹体験をしました。まず最初に、自分た
 ちの木の苗を植えました。ミズコケの部分を見てみよ
 と根がはえていて、不思議でした。そして、苗を植えて
 次に、職員さんが取って来たヒバの苗を植えました。
 苗は、儼然とはちかかって、自然の植物のような苗でした。
 植えるのは、パワーを使い、大変でした。これを一日
 200本も植えるのはもっと大変かと思いました。苗を植え
 るのが終わりました。僕たちの植えた苗は立派に育
 てほしいです。今日はありがとうございました。

図-2：「遊々の森」を終えての生徒からの感想

6 まとめ

協定締結による「遊々の森」での活動から、子供から大人へと成長していく過程の始めである大切な時期に、今回のような森林環境教育を行うことは、子供たちの心の成長にとって重要なことのひとつであると考えられる。

子供たちに対して森林とふれあう機会を多く作ることで、森林に対する関心や理解をより深めてもらうことを重点目標とする。

さらに、興味や関心を持ってもらえるような題材を考えたり森林教室等の内容を提案したりしながら、職員一体となって、より魅力的な森林環境教育の方法の確立を今後の課題である。